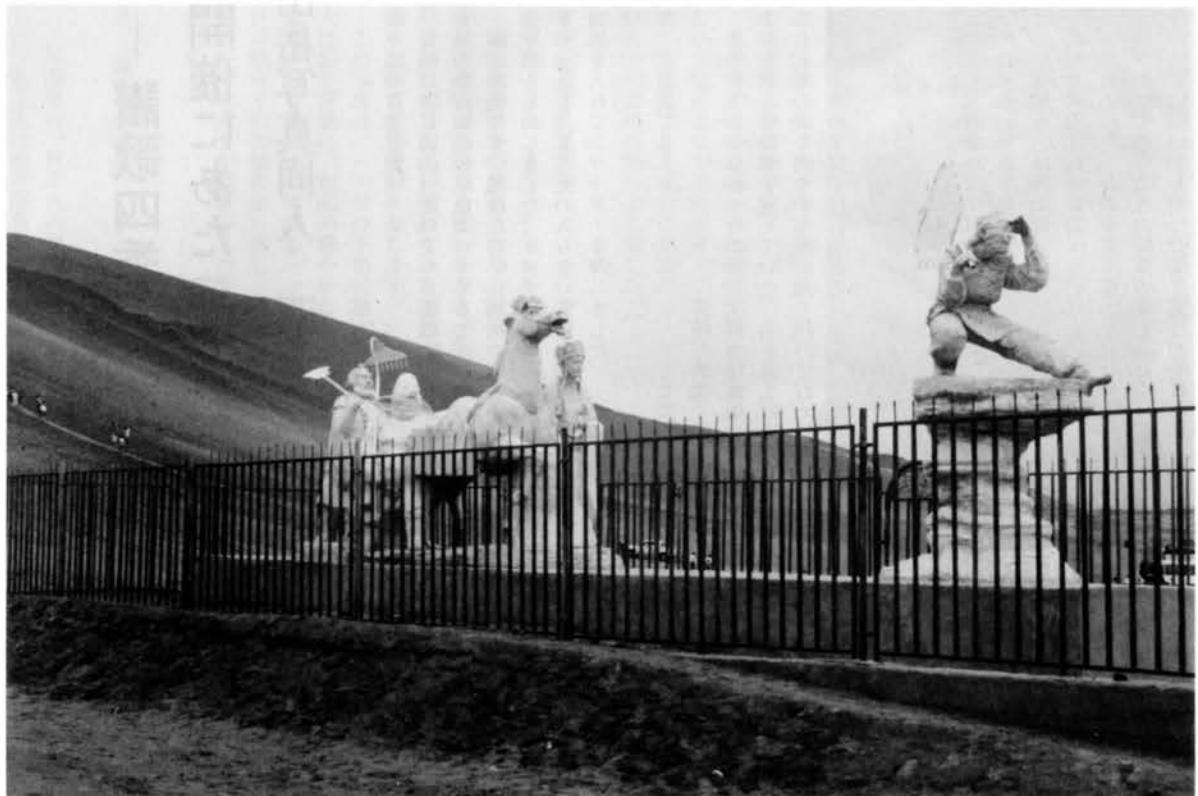


# 山と博物館

第44巻 第3号 1999年3月25日

大町山岳博物館



火炎山の麓に建つ西遊記の像 右端が芭蕉扇を手にした孫悟空  
(中国新疆 ウイグル族自治区トルファンに於て)

撮影 宮本 尚子

はるうらら

千葉 悟志

『山路きて何やらゆかしすみれ草』とは、あの松尾芭蕉が詠んだ句で、高橋（一九九〇）によれば、すみれ草とはタチツボスミレであったそうです。

それではと、博物館の池端でも見られるミズバショウ（水芭蕉）も、芭蕉に詠まれて由來したのだろうと、國鑑（牧野）（一九八九）を開くと、「水氣の多い湿地に生え、バショウ葉に似ていることから」とありました。バショウ（バショウ科）とは、中国原産の植物で、西遊記でも火炎山の牛魔王に化けた孫悟空が羅刹女から芭蕉扇を取り上げ、それを用いて火を消したというお話をあります。ミズバショウ（サトイモ科）の葉も大きいもので一メートルちかくにまで生長しますから、和名の由来も納得させられます。

本州中部以北、北海道および東アジアの寒地の湿原に生える多年草のミズバショウは、大きな花びらに見える白い仏炎苞（ボウエイハ）ですが、実は葉が変形したもので、芭葉と呼ばれています。それに包まれるようなかたちで花軸上に黄色の小さな花（両性花）が散りばめられたように咲いています。

県内でも奥裾花（オカヒナ）や梅池自然園などはミズバショウが多く生育し、写真に納める人、春を満喫する人と名所へは多くの方が訪れます。大町市にある居谷里湿原（県の天然記念物）でも、ザゼンソウに続いて、ミズバショウが次々と咲き誇ります。

その湿原や周辺の低山に訪れては、花曆というものを作成しています。月に三回、一人での作成ですが、時折吹く暖かな風が安雲野の春を告げるよう、のんびりとそして、植物や動物との偶然の出会いを楽しみにして、春はやっぱりよいものです。

(大町山岳博物館学芸員)

参考文献

高橋 秀男（一九九〇）野草大図鑑 北隆館  
牧野富太郎（一九八九）牧野新日本植物図鑑  
北隆館

4/17(土)~5/16(日)

# 「我が心に映る山——讃歌四季——」

## 開催にあたつて

山岳写真同人 四季

### 1、「初冬の剣岳」

林 朋房

一月末の休日を利用して扇沢から二、四四mの室堂に入りました。この時期、天候に恵まれると真白く雪化粧した立山連峰の景色に会うことができます。剣御前小屋の脇にテントを設営して、明日の好天を願いながら

眠りにつきました。

夜明け前に別山付近に立ち、青白い空間から東の空がしだいに色づいてくると、感動の一瞬ご来光です。光はしだいに剣岳の莊厳な姿を照らし出しました。カメラに広角レンズをセットし、まだ光の入らない青白い剣沢の雪面を入れてシャッターを押しました。

### 2、「若葉のとき」

宮崎 典代

冬の積雪が少なかつたのか、上高地は例年よりも少し早い春を迎えていた。ふと見上げると若葉の間を爽やかな風が通り抜けて行く。朝日がきらめき緑が目に染みた。

### 3、「風舞う稜線」

宮崎 典代

積雪の大天井へは、私の登山技術としては登山者の多い年末年始を利用するしかない。

ここから槍ヶ岳は特に美しい。

新年を大天井の冬期小屋で迎え、雪をたっぷりかぶった「莊嚴な槍ヶ岳」をフィルムに残すのがこのところの毎年の楽しみとなつていて。山はいつも違った姿を見させてくれる。



1、「初冬の剣岳」 林 朋房



2、「若葉のとき」 宮崎 典代



3、「風舞う稜線」 宮崎 典代



4、「槍ヶ岳への思い」 名取 洋

### 4、「槍ヶ岳への思い」

名取 洋

日本のマッターホルンとも称されている槍ヶ岳。標高三、一八〇m、日本第五位の高峰は周囲の山々から眺めると凜々として美しい。しかし、槍ヶ岳の良さは登頂してはじめて実感するものです。槍の穂に立つと正に三六〇度の展望が楽しめます。四つの鎌尾根を従え大景観は、お山の大将の気分です。この写真「滝雲流れる」は、山頂から西鎌尾根方面を狙つたもので、双六岳、三俣蓮華岳、遠く黒部の源流の山々が見えます。

山の魅力のひとつに高山植物との出会いが

あります。汗をかきながら重い荷物を背負つて歩いても、美しい花々に出会うとほつとすらものです。けなげに咲いている花々に心を奪われます。自然が作り出した色や形は、まさに至上の芸術です。

この高山の花たちの魅力を少しでも引き出せたらと、私はカメラを向けています。どの角度が一番美しいのか、一心に観察してシャッターを押すのです。



5、「朝日に輝いて」 井上のぞみ

この日のように穏やかな天候では、すばらしい景色を見させてくれます。この写真のように、雪面にできる風との共演のシユカブラはひとつ芸術作品のようでした。

## 7、「雪稜を行く」

大石 高志

立山連峰の冬の始まりは早く、一月となると雪一面の世界に変わります。天候の変化は目まぐるしく、晴れていると思えば、すぐには猛吹雪に早変わりをします。

この写真は、一月の下旬に雄大な新雪の大日岳を背景に、別山の穏やかな冬の雪稜を仲間がのどかに歩いている一コマです。次のは吹雪で山の様相は一変し、剣御前に設営していたテントを撤収しての下山は、一苦勞でした。

大石 高志

## 8、「凍てる大地」

吉田 理子

初冬を迎えた剣岳、立山、大日岳は、一面の銀世界でした。早朝は風の強かったこの稜線も、陽が昇るにつれて穏やかになり、青空の中に真っ白な峰々がくつきりとそびえていました。冬の山は、下界とは比べ物になら無い



6、「山稜の冬」 大石 高志  
「山稜の冬」のいたずらか、団子状になつた雪が散らばつていました。ファインダー越しの新しい世界。来る度に、新しい風景を見せてくれる上高地の大正池。私の大好きなところで

咲いているのかと尋ねてくる人もいました。

3月上旬の上高地の大正池は私たちにすてきな造形を与えてくれました。薄く張つた水面に積もつた雪が風のいたずらか、森の妖精が散らばつていました。ファインダー越しの新しい世界。来る度に、新しい風景を見せてくれる上高地の大正池。私の大好きなところで



7、「雪稜を行く」 大石 高志

## 9、「天突く鋭峰」

川上 詔夫

杓子岳は、稜線の縦走路から見ると頂上が平坦でおとなしそうな山に見えますが、その頂稜に立つて信州側をのぞくと、断崖が鋭く



8、「凍てる大地」 吉田 理子

9、「天突く鋭峰」 川上 詔夫



切れ落ち、すいぶん違ったイメージの姿となります。

四月末、私は双子尾根を登り、山頂直下に幕営しました。翌朝の稜線は強い風が吹き荒れしていましたが、次第にガスが吹き飛ばされ、晴れ渡りました。雪庇を踏み抜かないようには細心注意を払いながら、稜線から身を乗り出すようにして、鋭角にそびえる杓子岳の姿を捉えました。

#### 10、「折り折り樹」 安田 郁子



10、「折り折り樹」 安田 郁子

安田 郁子

春は、若葉がお日様の光を受けて柔らかく香り、透き通つて素適な世界です。夏になるとお日様の強い光に、たくましく生い茂り、日除けにもなつてくれます。そして秋、日一

日と色とりどりに錦の衣をまとい、山の稜線

から里へと短い秋を競い合う、タベストリーの宴のようです。白い使者が訪れる頃、葉衣を脱いだ冬支度の樹々達。葉を落とした幹や枝も、柔らかな陽を浴びて風情があります。いつの季節も自分が主張し、ぬくもり感じさせてくれる樹々。自然の息吹を感じながら、その中に身を置くと、清々しく幸せな気分になります。

#### 11、「花に思う」 長尾恵美子



11、「花に思う」 長尾恵美子

長尾恵美子

ある日、花にとてもいとおしく感じた時に写真にとつてみたいと思い、一眼レフカメラと100mmマクロレンズを買って、関西で行われた花の万博に出かけました。

珍しい花々に感動して夢中になつてシャッターを押した事を思いだします。このことが

本格的に写真を撮るきっかけになりました。その後山岳写真を始めたので、主に高山植物を撮るようになりましたが、山登りの途中に足元に可憐に咲く花々は疲れを癒し、心に優しさと潤いを与えてくれる大切な存在です。

#### 12、「エメラルドの海」 中司 茂男



12、「エメラルドの海」 中司 茂男

中司 茂男

ここ数年、撮影のための黒部の源流から下の廊下へいたるまで通いつめています。その中でもお気に入りの場所が、赤木沢出合です。この写真は、黒部川・赤木沢出合にある海を題材として、渓流の碧色が醸し出す幽谷さを表現したものです。これからも、黒部渓谷の織り成す水の流れと岩や樹林とのハーモニーを写真という静止画の中に表現していきたい。今年もまた、雪解けと共に僕の黒部通いが始まります。

本格的に写真を撮るきっかけになりました。その後山岳写真を始めたので、主に高山植物を撮るようになりましたが、山登りの途中に足元に可憐に咲く花々は疲れを癒し、心に優しさと潤いを与えてくれる大切な存在です。

大町山岳博物館では「我が心に映る山—講歌四季ー」と題して、山岳写真同人「四季の会員による山岳写真作品を展示します。展示する作品は一四〇点で、カラーワーク七日(土)から五月一六日(日)までです。会場は大町山岳博物館ホール・特別展示室・教室で、常設展料金での入場となります。

## お知らせ

大町山岳博物館では「我が心に映る山—講歌四季ー」と題して、山岳写真同人「四季の会員による山岳写真作品を展示します。展示する作品は一四〇点で、カラーワーク七日(土)から五月一六日(日)までです。会場は大町山岳博物館ホール・特別展示室・教室で、常設展料金での入場となります。

#### 第37卷第11号(平成4年11月)

北アルプスにあつた世界記録  
長野県・新潟県の  
遺跡から出土したカモシカ

原山 智  
千葉彬司

#### 第37卷第12号(平成4年12月)

座談会 山岳博物館の現状と将来

#### バックナンバーの請求方法

右記にご希望のものがありましたら、一部

100円でお分けします。巻号と部数を明記

の上、現金書留か口座振替で大町山岳博物館宛て送金ください。(送料当方負担)

#### 山と博物館 第44巻 第3号

一九九九年三月二十五日発行  
〒長野県大町市大字大町八〇五六一  
大町山岳博物館

TEL〇一六一-二三一〇二二一  
大糸タイムス印刷部

定価年額一、五〇〇円(送料共)(切手不可)  
郵便振替口座番号〇五四〇七一三五三